

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2020年4月～6月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

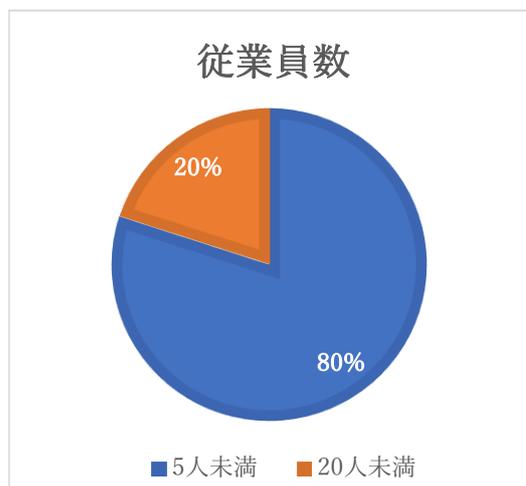
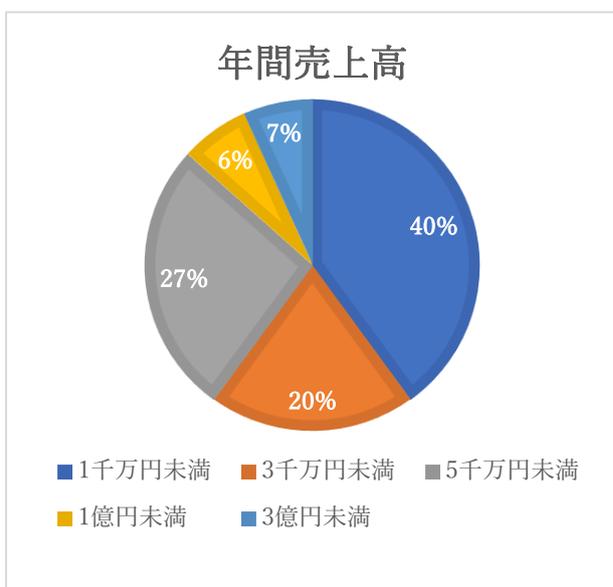
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 6 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI分析

表1：2020年4月～6月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-53.3%	-33.3%	0.0%	-50.0%	-83.3%
販売単価	-26.7%	0.0%	0.0%	-50.0%	-33.3%
経常利益	-46.7%	-33.3%	0.0%	-50.0%	-66.7%
資金繰り	-33.3%	0.0%	0.0%	-50.0%	-50.0%
人材確保	-6.7%	33.3%	-50.0%	0.0%	-16.7%
景況感	-73.3%	-66.7%	-50.0%	-75.0%	-83.3%

- 前回（2020年1月～3月）に比べ、全体としてすべての数値が著しく悪化している。
- 特に、サービス業においてすべての項目で顕著に低迷している様子が窺える。
- サービス業及び小売業の資金繰りの悪化が顕著であり、長く続く業績（売上高・経常利益）の悪化が資金繰りに影響を与え始めている様子が窺える。
- 前回好調だった製造業においても売上高・経常利益の悪化が見られるようになった。

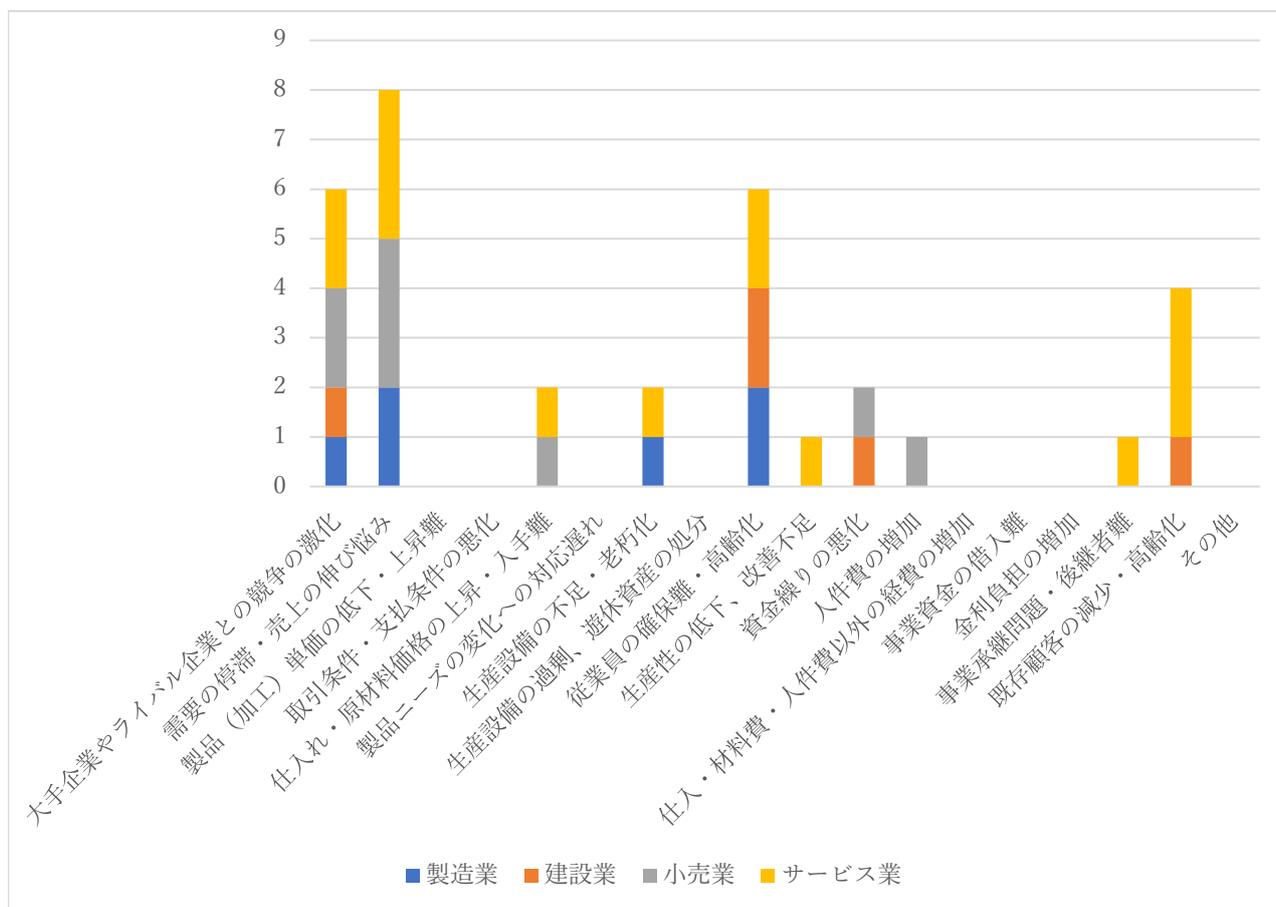
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2020年4月～6月の課題意識



- 前回に比べ、競争環境は変化がないまま、ここでもサービス業において需要・売上の伸び悩みが加速化している様子が窺える。
- また、前回は比較的堅調だった製造業においても需要・売上の減少が見られるようになった。この点はDI値と整合性がついている。
- その他、製造業では、従業員の確保難・高齢化がさらに深刻になっている。これはDI値と矛盾する結果のように見える。推測するに、問題視しているため従業員確保に取り組み、一部で成果が実っていることを指し示しているように考えられる。

III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

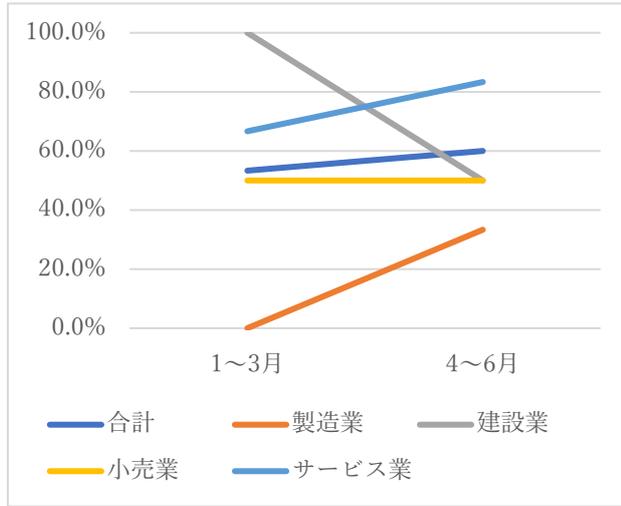
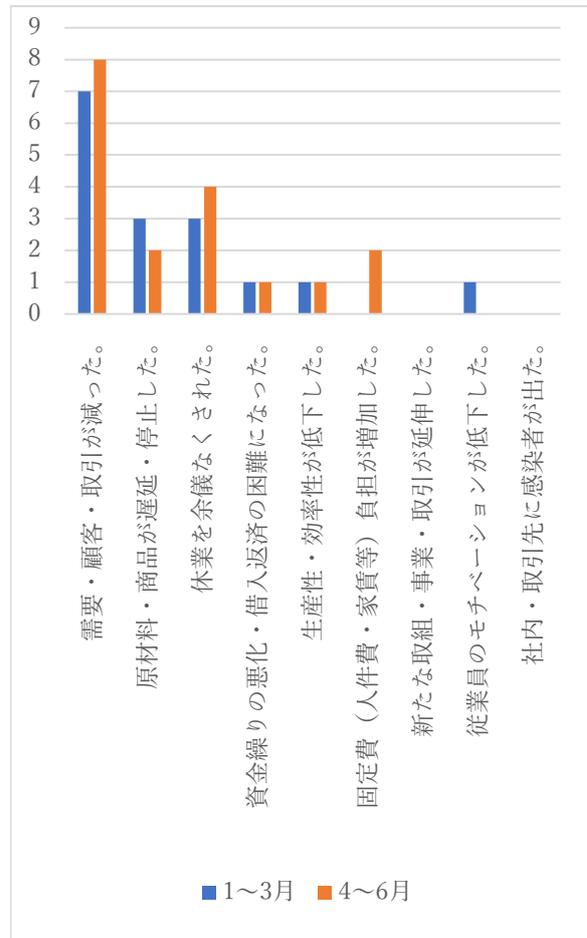


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 緊急事態宣言の発令を背景に、前回に比べ、全体的に経営の悪化が進んでいる。需要・顧客・取引の減少がさらに高まっており、休業を強いられる企業も増えている様子が窺える。
- 特に、飲食店や理美容業などのサービス業の経営悪化が顕著である。DI値で顕著だったサービス業の業績（売上高・経常利益）の低迷は、コロナ禍によるものであることが明確になった。
- また、製造業においてもコロナ禍の影響が忍び寄ってきている様子が窺える。DI値の業績（売上高・経常利益）の悪化はコロナ禍の影響であることが推測できる。
- 建設業においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響は緩和されているように窺える。
- また、売上減少は経費負担、特に人件費や家賃など固定費が負担になり始めている様子が窺える。

以上